

# 自分がいま使っている SNS の特徴を考える

SNS という道具を使うことで、いろいろな人とのコミュニケーションは大きく広がり、楽しいこともたくさん経験できます。しかし一方で、ちょっとした不注意から、知らないうちに相手を傷つけていたり、自分が傷つけられたり、あるいはフェイクニュースなどにまどわされる危険性もあることを覚えておく必要があります。

## その SNS は、だれが見ているのか

会員どうし、あるいは自分が認めた相手とだけつながる SNS なのか、もっと大勢の人が見ることのできる SNS なのか。SNS を利用する時には、そのことをきちんと覚えておく必要があります。

ツイッターやインスタグラムなどの SNS は、見ようと思えば、基本的にはだれも見ることのできる SNS です（もちろん、見られる範囲を制限するような設定をしておけば別ですが）。ですから、ツイッターやインスタグラムに投稿する場合には、「自分が知らないだれかも見るかもしれない」ということをわかった上で、どんな情報発信をするのか、を考えなくてはなりません。

また、フェイスブックの場合は、「友だち」としてつながっている人どうしでしか、投稿内容を見られないということが原則ですが、だからといって安心はできません。あなたとつながっている相手が、あなたの許可を得ることなく、自分のネットワークに拡散するこ

とはできてしまいます。あなたの“友だちの友だち”は、必ずしも“あなたの友だち”ではないのです。

こうしてみると、どのようなタイプの SNS であっても、“自分が知らないだれか”に情報が伝わってしまうことを完全に防ぐということは難しいといわざるを得ません。

これは、インターネットというしくみを使ったサービスである以上、ある程度は自覚しておく必要があることなのです。



## より多くの人に情報を伝えたい時に

時には、自分の知り合いだけでなく、もっと大勢の人に知ってほしい情報というものもあるでしょう。

そんな時は、ツイッターのような、情報の広がる範囲がより大きい SNS が良いかもしれません。

たとえば、あなたの近所で火災が発生した際に、「どこどこで火災です」という情報をすばやく伝えるのは大事です。そんな時、ツイッターなどはとても役立ちます。

しかし、だれかから「どこどこで火災です」という情報を受け取った時に、よく確かめずに情報を拡散することはいけないことです。その情報がフェイクニュースである可能性もあるからです。

情報に接した時には、あわてて拡散するのではなく、まずは落ち着いて事実を確認し、それが事実だとわかってから拡散するようにすべきです。



## 写真の力にまどわされない

インスタグラムのような写真を中心とした SNS では、とても興味深い写真がたくさん掲載されています。もちろん、ツイッターやフェイスブック、ラインなどでも写真や動画を投稿できるので、そうした SNS でも多くの写真や動画が見られます。

言葉で伝えられる情報よりも、写真や動画で伝えられる情報は、本当らしく見えます。文字情報だけで「黒いライオンがいる!」と伝えられても、ホントかな?? と疑うでしょうが、実際に「黒いライオン」の写真を見せられたら、ホントだ!! と信じてしまうものです。ある意味で、写真や動画には、文字や言葉以上に力があるのです。

でも、ちょっと待ってください。今では写真を加工することなどカンタンにできてしまいます。また、山火事の動画が投稿されていたとして、投稿者がそれを「日本のどこどこで山火事だ!!」とコメントしていたとしても、それが本当に日本で発生したものかどうか、わからないでしょう。

このように、どんなに確からしい写真や動画であっても、そこにウソが入りこんでいる可能性はあるものなのです。



## 情報量が多い写真の投稿に 気をつける

Instagramをはじめとした写真を投稿するタイプのSNSが人気です。スマートフォンでだれもが手軽に写真を撮れて、それを公開する方法を便利に使っています。しかし、写真というものは、思っている以上に情報がたくさんつまっているため、もし悪用されると大変なことになるのです。

### 画像をコピーされ、 拡散される

SNSに写真を投稿する時には、その写真は、「自分が見せたい人以外にも見られる」可能性があることを知っておくことが重要です。

友だち限定に設定してあるSNSであったとしても、友だちの友だちを通じて、予想外の広い範囲に写真が拡散してしまうことはよくあるのです（→32ページ）。

「このSNSは、親しい友だちとしかつながっていないから大丈夫」というのは、単なる思いこみでしかありません。

いったんSNSに投稿した写真は、だれが見るかわからないということをしっかり理解しておくことが大切です。

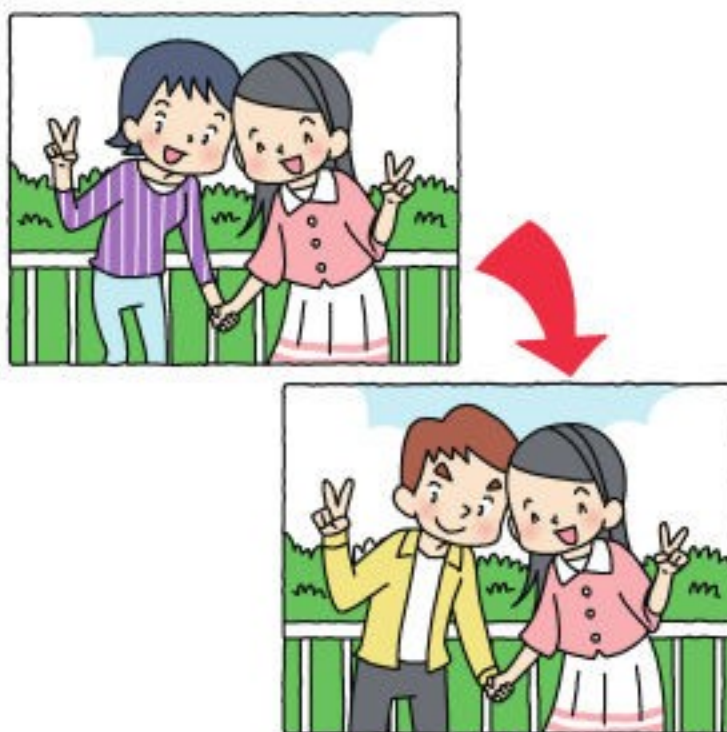
### 加工されて、 まったくちがう写真になる

写真の加工技術は、とても高度になっています。Instagramなどに投稿するために、料理の写真をおいしそうに見せるために、写

真の色合いを加工する程度のことは、だれでもできてしまいます。

しかも、そうした加工は、特別なソフトウェアなどを使わなくても、カンタンにだれでもできるようになっています。

こうした加工技術を使って、あなたの写真をまったく別の写真のように加工してしまうことで、悪用する人がいないとはいいい切れないのです。



### 写真から読み取れる情報で 場所を特定されないために

最近のデジタルカメラや、スマートフォンで撮影した写真には、撮影場所や撮影日時が情報として埋めこまれることはすでにお伝えしたとおりです（→27ページ）。

しかし、写真そのものに、位置情報などが埋めこまれていなくても、その写真に写りこんでいる情報から、場所を特定することもできてしまいます。

たとえば、電柱に貼り付けてある住所表示やマンホールのフタ、背景にあるお店の看板と、そこに書かれた電話番号など、写真に写っている情報だけで、場所を特定することは決して難しくはないのです。

最近ではスマートフォンでも、カメラの機能が高度になっており、ちょっと見ただけでははっきりしない部分であったとしても、パ

ソコンなどで拡大することで、意外にはっきり見えてしまうこともあるのです。

ですから、画像の位置情報をつけていないからといって、安心することはできないのです。

### その場所を知っている人が 必ずいる

また、大勢の人が見られるSNSに投稿された写真だと、「たまたまそこを知っている」という他人がいなくてもかぎりません。むしろ、何十万人、何百万人というインターネットユーザーの中には、1人ぐらい、「その場所を知っている人がいる」ことのほうが、確率的には高いかもしれません。

そのため、もし「他人に知られたくない」場所で撮影した写真なら、「どうせわからないだろう」と気軽に考えるのではなく、投稿しないようにすべきです。

### 画像を 拡大すると...



電柱の住所、食堂の電話番号、マンホールの表示などがはっきり見えてしまう